



ともに創り出す同好会活動を振り返って

今年度は、全小社研名古屋大会において「名古屋の社会科」を全国に発信した年でした。全小社研名古屋大会の副題「協働から参画を志向して」にある「参画」は、まさに今年度の同好会活動を進める上で大切にしてきたキーワードです。

<ともに創り出す研究活動>

小学校部会は、研究推進部員が会場校協力委員として、指導案の作成・検討、プレ実践・本実践など、授業実践の具体化に携わってきました。また、全小社研名古屋大会の理論に基づいた実践に取り組みました。

中学校部会は、地理・歴史・公民の3分野において、協働から参画を志向する生徒の姿を求めた授業実践に取り組みました。

今後は、学習指導要領の改訂に備えて、研究推進部員一人一人が実践に取り組み、力量向上を図るとともに、「深い学び」につながる主体的・対話的な社会科学習の具体化を目指したいと考えています。

<ともに創り出す研修活動>

「授業にすぐに生かせる指導のノウハウやネタを教えてほしい」という若手会員のニーズに応じて、授業づくり研修会を年間5回に増やしました。たくさんの若手会員が研修会に積極的に参加し、効果的な資料提示や子どもの力を伸ばす評価方法などについて学ぶことができました。

今後も若手会員のニーズに応じた研修会を充実させて、「誰もが」「気軽に」学ぶことができるようにしたいと思います。また、会員同士のつながりが密になるようにグループ研修会の充実も図ろうと考えています。

研究や研修、全小社研名古屋大会に向けた取り組みの中で、会員同士が切磋琢磨し合い、目指していた「ともに創り出す同好会活動」を実現することができました。今年度の活動に対して皆様からお力添えを賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。

(名古屋市社会科同好会事務局長 稲永小学校 植村 宏明)

【第263号 紙面】

ともに創り出す

同好会活動を振り返って・・・(p1)

2月全体会 ご講演

名古屋市立小中学校長会社会科部会長

白鳥小学校長 小神一夫先生・・・(p2・3)

日々雑感 春岡小学校 教頭 谷藤洋久先生

編集後記・・・(p4)

2月全体会 ご講演「社会科教師に期待すること」

名古屋市立小中学校長会社会科部会長 白鳥小学校長 小神 一夫 先生

2月8日(水)中小企業振興会館において、2月全体会を行いました。名古屋市立小中学校長会社会科部会長 白鳥小学校長 小神 一夫 先生に、全小社研名古屋大会事務局長としてのご経験を踏まえ、全小社研名古屋大会を振り返りながら、「社会科教師に期待すること～全小社研名古屋大会を終えて～」という演題で、ご講演をしていただきました。

<社会科の大切な役割を再認識してもらうために>

全小社研名古屋大会に向けた公開授業単元の決定期限が迫る中、白鳥会場では、第6学年の単元を当初考えていた政治単元から歴史学習の最終単元である「新しい日本、平和な日本へ」に変更しました。

これは、戦後71年が過ぎ、人々の平和や政治参加への意識が変化している現状と、「平和と民主主義を学ぶことができる唯一の教科」という社会科の特性を踏まえて、原点回帰が必要だと考えたからです。

そして「戦後復興（東京オリンピック）」「経済成長と公害（札幌オリンピック）」「環境との調和（長野オリンピック）」という3回のオリンピックと社会情勢を学習し、2020年の2度目の東京オリンピックに何を世界に発信するのかを考えるという単元を構想しました。このような授業を公開することを通して、前年の広島大会での子どもたちによる平和への誓いを踏まえ、名古屋大会で、子どもたちに何を伝えるべきか、全国の先生方と語り合い、社会科の大切な役割を再認識してもらおうと考えたのです。



<学区の歴史・文化等に詳しい人になってほしい>

学区を調べると、学区の特色から教育課題や教育資源が見えてきます。名古屋城を北端として象の鼻のように伸びる台地を熱田台地と呼び、白鳥小学校は熱田台地の端に位置しています。地域の人々は、熱田が鎌倉時代から栄えたところだという誇りをもっていました。明治時代には、歴史ある熱田村の名古屋市への編入に対して、人々は反対しました。今でも地域の人々の学区に対する思い入れが大変強いのです。だからこそ、熱田祭りが、形を変えて、現在まで続いていると思います。また、白鳥学区は、堀川と新堀川に囲まれた学区です。学区より南部は、干拓と埋め立てによってできた土地であることから、地震による津波が起こった時には、名古屋市の防災対策の拠点となると言われています。だから、この地域に住む子どもたちが、南海トラフ巨大地震の学習を行うことは必要なのです。

学区の歴史と文化等に詳しい人になることで、自分の学区にどんな素材があり、教材化を図る上で、何がふさわしいのか、社会科の目標やねらいと照らし合わせながら、学習過程や学習活動を考え、教材化を図るところに、社会科教師の楽しさと面白さがあると思うのです。地域の人材を生かし、各学校の社会科の教育課程に生かしていけるようになると、社会科教師として一人前だと言えるのだと思います。

名古屋市社会科同好会

<教材研究を楽しむ人になってほしい>

社会科が嫌われる理由の一つは、産業構造・生産物・地域や社会の課題などが変化し、知識に流動性があるためだと思います。教材化に手間がかかるだけでなく、教材化してもすぐに陳腐化し、資料としても蓄積しにくいのです。また、社会科は決まった答えがありません。多くの人々が納得する解を見つけることが必要となるのです。

でも、教材研究はおもしろい。教材研究することで、自分自身の社会を見る目が養われ、教材の切り口が発見できるのです。また、人との出会いで自分を磨くことができます。他業種の人から学べるのは、言い過ぎかもしれませんが社会科だけです。取材を通して、接遇の態度や名刺交換の仕方など、学校では学ぶことができない、社会人としての一般常識や組織の中で働く人々の考え方をすることもできます。教材研究をすれば、子どもたちの活動を想定しながら、学習の流れを構築する力が付いてきます。大会で行ってきた「プロジェクトシート」「学習のあしあと」を、実践前に想定し、実際に実践を進めながら、部分修正をしていきました。こうすることで、子どもの発言を生かす余裕が生まれ、自信をもって授業に臨むことができます。教材研究を社会科教師としてのライフワークにしてほしいと思います。

<問題解決的な学習の専門家になってほしい>

学習問題の設定、意欲的な追究のさせ方、話し合いの仕方、まとめ方、この4点は、授業力を高める視点です。ネームプレート、シンキングカードの活用は全員参加の話し合いに欠かせない学習基盤だと思います。しかし、子どもたちの発言が続き、活発そうだなと思う話し合いの授業をよくよく観察すると、先生と子どもの1対1。先生が子どもの発言を言い直し、先生が褒め、子どもは先生にだけ発言している姿を見掛けます。こうした授業を改善するために、白鳥小では、子どもに「もどす」言葉、子どもと子どもを「つなぐ」言葉を大切にしてきました。

「もどす」とは、根拠の明確化と再考を促す言葉です。例えば「どうして、そう考えたの」「他の言葉で言うとどうなるかな」「Aの考えとBの考えが違うのは、どうして」「この立場から考えると、どうかな」などです。「つなぐ」とは、子ども同士の発言や社会的事実とを関連づける意図的な言葉です。例えば「今の考え、もう一度だれか言ってくれないかな」「話し合いを整理してくれない」「どの資料を基にしたの」「もし〇〇としたら、どうなるかな」などです。ありがちな「他にないですか」は、話し合いが深まらなくなってしまう言葉で、つなぐことなく、切ってしまうことにもなってしまいます。

子ども同士で話し合いの論点が形成され、新たな考えを生み出したいものです。社会科で学んだ問題解決的な学習を、学校努力点や校内研修に活かしてこそ、社会科教師としての役割を果たすこととなります。校内で研究推進力を発揮してほしいと思います。

<おわりに>

全国大会の各会場校では、研究協力委員の皆さんが、若い力を発揮し、教材開発、学習指導案作成、学習資料作り、校内掲示物作成に全力を傾けてくれました。また、授業実践の始まる9月下旬から大会当日に至るまで、授業での子どもたちの反応を授業者と交流し合い、次時の学習展開を熱心に考え合う姿が見られました。適材適所に配置された皆さんが、それぞれの持ち場で全力を発揮する姿には、名古屋ならではの社会科魂を感じました。6年後となる全中社研名古屋大会に向けて、さらなる飛躍を願っています。

名古屋市社会科同好会

日々雑感

名古屋市立春岡小学校 教頭 谷藤 洋久

全小社研名古屋大会が成功裡に終わりました。

大会は、多くの成果を上げ、同好会活動のさらなる活性化に結び付いているかと感じます。また、大会を記念して出版された『その壁をのり越えろ！』をたいへん興味深く、読ませていただきました。本著には、名古屋のまちづくりや産業の発展等のために尽力する皆様が、生き生きと表され、社会科の教師として、こうした人々の姿を、ぜひ、社会科学習に取り上げてみたいと感じました。

ところで、周りを見渡しますと、本著で取り上げられた皆様に加えて、名古屋のまちづくりに尽力する市民の方々が数多くおみえです。私は以前、生涯学習センターで社会教育主事として業務をする中で、そうした方々と数多く出会うことができました。緑地の整備に携わる方々、河川の浄化に尽力する方々、まちの魅力を発信する史跡ガイドボランティアの方々、自助・共助による地域の防災力を高めようと尽力する防災ボランティアの方々、古くから名古屋に息づく伝統産業を守り継ぐ方々など。このような方々との出会いは、私にとって意義深いものでした。そして、こうした方々の取り組みや思いを社会科学習に取り上げ、授業を創りたいと感じました。

まもなく新年度を迎えますが、担任をした新たな学年において、社会科学習の教材開発を行う時、各区の生涯学習センターの社会教育主事に一報されるのは、いかがでしょうか。社会教育主事の皆様は、名古屋のまちづくりに尽力する市民の皆さんとの多くのつながりをもってみえます。また、社会科学習の研究を積んだ方も多くおみえです。授業づくりのヒントを数多くいただけるのではないかと思います。

【編集後記】

平成29年1月下旬に、学習指導要領（案）が出されました。次期学習指導要領には、内容だけでなく、内容のまとまりごとに身に付けたい知識・技能、思考力・判断力・表現力が示されました。また、小学校では中学年の内容が第3学年と第4学年とで分割されて示され、中学校では単元全体を見通した主体的・対話的な学びの位置付けが求められるなど、今後、学習内容・学習方法ともに大きく変化を求められる時期に入ってきます。

名古屋市社会科同好会では、今年度同様に「OB訪問」「ご講演の内容」などを中心に、会員の先生方がアンテナを高くもって見識を広げ、変化に対応することができるように、「ひろば」で様々な情報を伝えていくことができるようにしていきます。

今年度の「ひろば」の発行にあたり、多くの方々にご協力をいただきましたこととお礼申し上げます。